

チャボヒバホール

JJ1SXA/池

立川市幸町に今春、音響設備を備えた多目的ホール「チャボヒバホール」がオープンした、「身近に音楽を聴ける場所を造りたい」と、オーナーの小峰美子さん（59）が私財をはたいて建設した、庭には樹齢 130 年余りのチャボヒバがそびえ立っており、小峰さんはその下に人々が集うことを願っている。

五日市街道沿いのホールが立つ広い土地は、小峰さんの先祖が代々暮らしてきたところだ、幼い頃には、周辺には農家や養蚕農家も多かったが、現在は住宅や店舗が広がる。

小峰さんは、2011 年 11 月に亡くなった父からこの土地を相続した、その際、小学生からピアノに親しみ、色々なジャンルの音楽を聴くのが好きだったことから、「音楽は誰にとっても身近なもの、多くの人に音楽に親しんでほしい」とホール建設を思いついたとのこと、小峰さんが最もこだわったのは、子供の頃から同じ場所にある 10 メートルほどのチャボヒバをそのままの形で残すことだった、その思いの通り、チャボヒバはホールの真正面で青々とした葉を茂らせ、シンボルツリーとしての存在感を見せる、小峰さんは「演奏会やダンス、朗読会など、多くの人に気軽に使ってもらえたらうれしいです」と話している、立川に文化の薫りが漂う話題だ。

ホールのグランドピアノはベーゼンドルファーで、中学生の時に見た映画「サウンド・オブ・ミュージック」の舞台になったオーストリアのメーカーだ、外観は端正で静謐、一見すると美術館のようですが、本格的な音響設計が施されている多目的ホールだ。

ホールの名前となった、チャボヒバとは、かつては和風庭園の背景に欠かせない定番の植木として主に「玉散らし仕立て」にして観賞されたそうだが、最近では日陰に強いコニファー、あるいは和モダンのコニファーとして再注目されているとのこと、葉の形が矮鶏（チャボ）の足型のようなこと、あるいは枝が短いことで、足が短いチャボに擬えて命名された、ヒノキの園芸品種とのこと。

